

# 令和5年度 第3回 朝日地域振興懇談会

## 次 第

日 時 令和5年12月9日（土）  
午後6時開会  
場 所 朝日中央コミュニティセンター  
すまいる 大集会室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 報 告

(1) 「かたくり温泉利活用トライアル事業」結果概要について 資料1

### 4. 協 議

(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（最終案）について 資料2, 3-1, 3-2

(2) 朝日地域振興計画（素案）について 資料4

(3) その他

### 5. そ の 他

### 6. 閉 会

「かたくり温泉利活用トライアル事業」結果概要について

令和5年11月22日  
朝日庁舎市民福祉課

1 事業概要

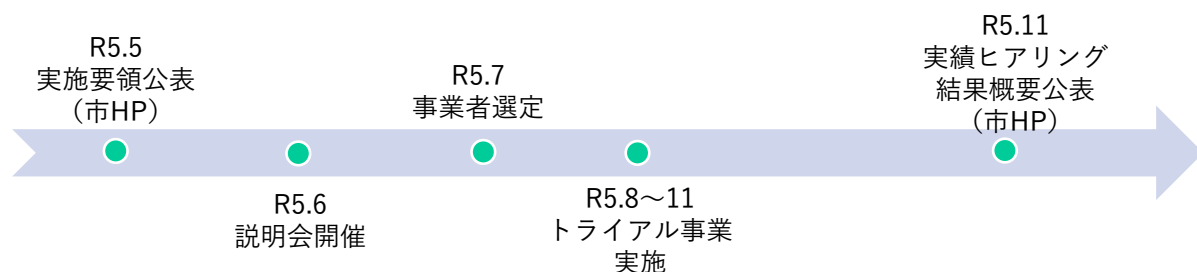
○目的

市は、温泉入浴事業等を行う新たな運営事業者の選定に向けて、実際の施設運営を通じて課題を把握することにより本格的な事業化の実現可能性を確認し、民間事業者等が参入しやすい公募条件を検討するための判断材料を得ることを目的として、参画意欲がある事業者に温泉施設を暫定的に利用していただくトライアル事業を実施しました。

○実施事業者 NPO法人こみっとAFC

○実施期間 令和5年8月11日～11月11日

○事業スケジュール



2 事業実施結果

(1) 温泉入浴事業

○事業概要

- ・営業期間 令和5年8月11日(土)～11月11日(土) 71日間
- ・営業時間 水～土曜日 10時～21時、日曜日 7時～21時 (祝日を除く月・火曜日休館)
- ・利用料金 大人 450円、子ども(12歳以下) 150円、未就学児無料
- ・大広間無料開放 ・キッズコーナー新設(絵本、遊具、DVD設置)

○利用者数(人)

	R5 (トライアル事業)					R4 (管理運営組合)				
	営業 日数	大人	子ども (小学生)	計	日平 均	営業 日数	大人	子ども (小学生)	計	日平 均
8月	17日	2,425	187	2,612	154	30日	3,646	101	3,747	125
9月	23日	2,933	142	3,075	134	29日	3,508	40	3,548	122
10月	22日	3,071	86	3,157	144	30日	4,283	66	4,349	145
11月	9日	1,725	51	1,776	198	29日	4,793	98	4,891	169
計	71日	10,154	466	10,620	150	118日	16,230	305	16,535	140

- ・1日あたりの利用者数は、当初の目標 100 人/日に対して 150 人であり 50 人増加した。
- ・子ども料金の引き下げ、キッズコーナー設置などの取り組みにより、親子連れなど若年層の利用が促進された。

## (2) 地域振興に資する自主事業

事業名	実施日	参加者数	内容
湯上がりケア体験	10/5 (木)	10 人	講師：市内の化粧品専門店スタッフ 美容のプロによるお肌のお手入れと頭皮ケア体験 ・共催/朝日中央地区自治振興会
ぼんぼ de テントサウナ	10/14 (土)	15 人	屋外に設置したテントサウナ体験 ・共催/WaGeSho (朝日地域の若者で構成された団体)
あさひマルシェ	10/15 (日)	200 人	朝日地域特産品販売、クラフト体験、手芸品販売、 だがしや楽校 ・共催/出羽商工会朝日支所、熊出地区自治会
紅葉 S A N P O	10/28 (土)	13 人	紅葉のブナ林に囲まれた街道約 5km をトレッキング ・共催/アルゴディア研究会 他
ニーズ調査 (利用者アンケート)	10/21~11/5		アンケート回収数 268 件 (調査方法：対面 185 件、web 回答 83 件)

## 3 トライアル事業実施による確認事項

- ・温泉営業及び地域の団体と連携のもと実施した地域振興に資する自主事業により、地域住民をはじめ多くの市民が集う交流や憩いの場としての役割を果たすとともに、地域コミュニティ形成や健康増進、地域の産業振興など、温泉施設を拠点とした地域振興に資する事業の可能性を確認することができた。
- ・収支については、経費節減の取組や、利用者数が目標より多かったことなどにより、最終的には収入が僅かに上回る結果となっている。

## 4 事業を本格実施するうえでの課題

- ・現在生じている、温泉運営上必要な施設設備の不具合箇所の改修、修繕
- ・社会情勢によって大きく影響を受ける、光熱水費・燃料費の対応
- ・地域振興に資する事業を実施するため「健康の里ふっくら」の一体的活用

## 5 市の支援について

トライアル実施事業者であるNPO法人より、令和6年4月以降の営業再開の意向を確認したことから、トライアル事業により把握した温泉運営に必要な設備修繕を計画するとともに、令和6年度以降の支援についても検討する。

## 6 今後の予定

市は、トライアル事業の結果を踏まえ、かたくり温泉を運営する事業者を公募により選定するための検討を進める。



令和5年9月27日に開催した**議員全員協議会**で、後期基本計画の素案及び5つの加速化アクションについて説明し、10月26日に開催した**総合計画審議会**で前文及びKPIの見直しについての協議を実施した。今後、指摘事項等を踏まえ、前文の修正や大綱毎の計画案のとりまとめを進め、後期基本計画の策定を進めていく。

## 《10/26 総合計画審議会の会議概要》

### 計画の構成や前文の概要

後期基本計画の全体像や、計画策定の趣旨や背景等を記載した前文案の説明

#### ⇒委員からの主な意見

- ユネスコ食文化創造都市や全国最多3つの日本遺産など、鶴岡市の特性や特徴を分かりやすく明記すべきではないか。
- 新型コロナウイルスの記載について、今後の方向性等の説明を少し入れた方が良い

### KPIの見直し概要

目標値の修正、成果指標の項目の変更、追加した項目とその理由を説明

#### ⇒委員からの主な意見

- KPIの修正や追加に関しては、その理由がわかるように記載した方が良い。
- KPIの経緯がわかるよう、実績値を記載したほうが良い。

### 5つの加速化アクションの取組の目安となるKPIの設定

計画全体に対する総論的な評価のため、5つの加速化アクションごとにKPIを設定

#### ⇒委員からの主な意見

- 5つの加速化アクションのKPIにもう少し子どもの視点を入れられないか。

## 《今後のスケジュール（予定）》

### 1 1月～12月 各専門委員会・地域振興懇談会

➤ 大綱別の後期基本計画の最終案をとりまとめ

11月 9日	藤島地域振興懇談会	11月28日	厚生専門委員会	12月 9日	朝日地域振興懇談会
20日	社会基盤専門委員会	28日	羽黒地域振興懇談会	25日	企画専門員委員会
22日	市民教育専門委員会	28日	櫛引地域振興懇談会		
27日	産業専門委員会	28日	温海地域振興懇談会		

### 令和6年2月6日 総合計画審議会

➤ 後期基本計画の最終案をとりまとめ

2月中旬 **答申**

2月下旬 **答申結果等を議会に共有**

3月上旬 **パブリックコメント開始**（市民からの意見徴収）

3月下旬 **策定・公表**

## (5) 朝日地域

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。

しかし、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援に加え、地域を支える人材育成・確保やデジタル技術のモデル活用などにより、**中山間**地域の暮らしを守り支える取組を進めます。

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や担い手の育成・確保、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や歴史、伝統文化、食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。

### ア 中山間地域における定住環境の支援

#### ○施策の方向

地域住民が住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や支援を行います。また、住民による生活基盤の維持、強化に係る取組を支援するとともに、地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、地域を支える人材の育成・確保を進めます。あわせて、地域資源である自然環境を活かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを**推進**します。

#### ○主な施策

- ① 豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。
- ② 地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織、持続可能な地域運営組織の育成を支援し、あわせて、活動拠点となるコミュニティ施設などの整備を推進します。また、交流事業や地域資源を活用した関係人口の拡大と人材育成を推進します。
- ③ 学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。

- ④ 雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。
- ⑤ 近隣住民による地域支え合いの仕組みづくりや、関連福祉団体等関係機関との連携による地域資源を活用した包括的な取組を通して、地域住民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるため、地域福祉支援体制の充実を図ります。
- ⑥ 豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。
- ⑦ 中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供、**地域づくり活動での活用支援**、地域デジタル人材の育成を推進します。

## イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

### ○施策の方向

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品の販売支援、特産品の開発、既存商品の価値向上に取り組むとともに、農地保全のための地域組織活動への支援などを通して、農村集落機能の維持をめざします。また、広大な森林資源を活用した特用林産物の生産支援などを行い、山林の荒廃防止と資源循環をめざします。

### ○主な施策

- ① 出荷手段を持たない高齢者などへの支援により生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、朝日地域の特産である山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワインや山菜、朝日産そばなど、**地域内農産物の生産振興や新たな特産品の開発と販売への支援**、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。あわせて、地域農業の担い手となる若者農業者等の育成・強化を図ります。
- ② 地域の共同活動による農用地、水路、農道など適切な保全管理や持続可能な地域組織活動への支援を通して、農村集落機能の維持をめざします。あわせて、鳥獣被害防止対策への支援強化の取組を推進します。  
特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じて、間伐材等の木材の活用を促し、山林の荒廃防止対策を推進します。

## ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

### ○施策の方向

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。また、観光団体等との連携を強化し、地域にある自然や歴史文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通して地域資源の高付加価値化を進め、地域の活性化につながる観光振興をめざします。



## ○主な施策

- ① 通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた誘客を図るための計画的な環境整備を推進するとともに、拠点施設におけるインフォメーション機能の整備やガイドなどの人材育成を支援します。
- ② 日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道、大鳥池や以東岳をはじめとする朝日連峰の豊かな自然環境、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化など観光資源の複合的な活用を進めるとともに、近隣地域との連携により地域資源の魅力を高めて交流人口の拡大を図ります。あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。

## 施策の成果指標

項目(測り方)	現状値	実績値	成果指標(KPI)
転出による世帯減少率	△2.3% (2017 (平成 29) 年度)	△1.6% (2022 (令和 4) 年度)	△1.65% (2028 年度)
地域内経営耕地面積の確保	843ha (2015 (平成 27) 年度)	780ha (2022 (令和 4) 年度)	820ha 以上 (2028 年度)
朝日地域への観光入込客数	526 千人 (2017 (平成 29) 年度)	268 千人 (2022 (令和 4) 年度)	530 千人 (2028 年度)

### [設定理由]

豪雪、中心市街地への距離が遠く交通費が掛かるなど、生活環境が不利であることを要因に転出する世帯を抱える中山間地域での定住化支援策により、世帯数減少率を緩やかにし、地域の維持が図られる。

中山間地域の農地は耕作条件が悪く、高齢化などにより離農する農家が増加する中、新たな借受者を探すことが困難な状況であり、施策により地域内における耕作農地の減少を緩やかにし、農地の維持が図られる。

多様な観光資源の活用や人材育成、交流の場の提供により観光入込客数の増加につながり、観光産業の振興が図られる。

【見え消し版】 青字:前回修正済 赤字:今回修正

## (5) 朝日地域

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。

しかし、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援~~など~~に加え、地域を支える人材育成・確保やデジタル技術のモデル活用などにより、中山間地域の暮らしを守り支える取組を進めます。

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や担い手の育成・確保、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や歴史、伝統文化、食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。

### ア 中山間地域における定住環境の支援

#### ○施策の方向

地域住民が住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や支援を行います。また、住民による生活基盤の維持、強化に係る取組を支援するとともに、地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、次世代を担う地域を支える人材の育成・確保を進めます。あわせて、地域資源である自然環境を活かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを推進します。進め、中山間地域の暮らしを守り支える取組を行います。

#### ○主な施策

- ① ~~防災拠点施設からの距離が遠く~~、豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。
- ② 地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織、持続可能な地域運営組織の育成とを支援し、あわせて、活動拠点となるコミュニティ施設など活動拠点の整備を推進します。また、交流事業や地域資源を活用した関係人口の拡大と人材育成を推進します。

- ③ 学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。
- ④ ~~除雪支援など~~、雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進します。
- ⑤ ~~高齢者の自立促進と健康寿命の延伸のため~~、近隣住民によるの協力や地域支え合いの仕組みづくりや、医療機関、関連福祉団体等関係機関との連携による地域資源を活用した事業など包括的な取組を通して、地域住民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるため、高齢者地域福祉支援体制の充実を図ります。
- ⑥ 豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。~~また、交流事業などを通じた関係人口の拡大と人材育成を推進します。~~
- ⑦ 中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供と、地域づくり活動での活用支援、地域デジタル人材の育成を推進します進めます。

## イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

### ○施策の方向

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品の販売支援、特産品の開発、既存商品の価値向上に取り組むとともに、農地保全のための仕組みづくり地域組織活動への支援などを通して、中山間地型の複合経営農村集落機能の維持をめざします。また、広大な森林資源を活用した菌茸など特用林産物の生産支援などを行い、山林の荒廃防止と資源循環をめざします。

### ○主な施策

- ① 出荷手段を持たない高齢者などへの支援により生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、朝日地域の特産である山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワインや、~~山菜~~、朝日産そばなど、地域内農産物品の生産振興や新たな特産品の等開発と販売への支援、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。あわせて、鳥獣被害防止対策の取組を推進します。地域農業の担い手となる若者農業者等の育成・強化を図ります。
- ② 地域の共同活動による農用地、水路、農道など適切な保全管理や持続可能な地域組織活動への支援を通して、農村集落機能の維持をめざします。あわせて、鳥獣被害防止対策への支援強化の取組を推進します。  
木材、薪炭などの活用を推進します。また、菌茸などの栽培研究や技術研究などを進めることにより販売量の確保や生産者の育成を図り、特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じて、間伐材等の木材の活用を促し、山林の荒廃防止対策を推進します。

## ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

### ○施策の方向

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。また、観光団体等との連携を強化し、地域にある自然や歴史文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通して地域資源の高付加価値化を進め、地域の活性化につながる観光振興をめざします。

### ○主な施策

- ① 通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた、通年型観光による誘客を図るための計画的な環境整備を推進するとともに、拠点施設におけるインフォメーション機能の整備やガイド、インストラクターなどの人材育成を支援します。
- ② 日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道や、大鳥池や以東岳などの自然をはじめとする朝日連峰の豊かな自然環境、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化などを観光資源としての複合的な活用を進めるとともに、近隣地域との連携により地域資源の魅力を高めて交流人口の拡大を図ります。あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。

### 施策の成果指標

項目(測り方)	現状値	実績値	成果指標(KPI)
転出による世帯減少率	△2.3% (2017 (平成 29) 年度)	△1.6% (2022 (令和 4) 年度)	△1.65% (2028 年度)
地域内経営耕地面積の確保	843ha (2015 (平成 27) 年度)	780ha (2022 (令和 4) 年度)	820ha 以上 (2028 年度)
朝日地域への観光入込客数	526 千人 (2017 (平成 29) 年度)	268 千人 (2022 (令和 4) 年度)	530 千人 (2028 年度)

#### [設定理由]

豪雪、中心市街地への距離が遠く交通費が掛かるなど、生活環境が不利であることを要因に転出する世帯を抱える中山間地域での定住化支援策により、世帯数減少率を緩やかにし、地域の維持が図られる。

中山間地域の農地は耕作条件が悪く、高齢化などにより離農する農家が増加する中、新たな借受者を探すことが困難な状況であり、施策により地域内における耕作農地の減少を緩やかにし、農地の維持が図られる。

多様な観光資源の活用や人材育成、交流の場の提供により観光入込客数の増加につながり、観光産業の振興が図られる。

(素案)

# 朝日地域振興計画

(2024～2028 年度)

「中山間地域の暮らしを守り、支える取組を進めます」

令和6年3月

鶴岡市朝日庁舎

# 目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 朝日地域の特性・概要	1
3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題	3
(1) 現計画の取組にかかる整理と検証	
(2) 市民との対話等から得られた課題	
4. 朝日地域の目指す方向性	5
5. 施策の基本方針と主な施策	6
<b>基本方針1 中山間地域における定住環境の支援</b>	
主な施策 (1) 地域防災力の確保と防災基盤の強化	
主な施策 (2) 次世代へつなげる活力を育む地域コミュニティづくりの推進	
主な施策 (3) 地域の実情や需要に応じた地域内交通の確保	
主な施策 (4) 豪雪地帯における克雪対策への支援	
主な施策 (5) 地域で支え合う福祉支援体制の充実	
主な施策 (6) 森林資源と自然環境を活用した環境教育の実践	
主な施策 (7) 中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用	
<b>基本方針2 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興</b>	
主な施策 (1) 中山間地域における持続可能な農業経営への支援	
主な施策 (2) 農地・山林保全による農林業生産活動と農村集落機能の維持	
<b>基本方針3 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興</b>	
主な施策 (1) 通年で選ばれる観光拠点施設の環境整備と人材育成の推進	
主な施策 (2) 地域資源活用と観光団体等と連携した観光の振興	

※次回掲載:朝日地域の統計データ等

## 1. 計画策定の趣旨

鶴岡市は、2005(平成 17)年 10 月の合併以後、地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため、2008(平成 20)年 3 月に「地域振興ビジョン」を策定しました。

その後、2014(平成 26)年3月には、鶴岡市総合計画(後期基本計画)を策定するとともに、地域ビジョンの見直しを行い、「朝日地域振興計画」を策定しています。重点的に取り組むべき分野や政策課題を定め、地域活性化の個別プロジェクトをまとめました。

さらに、2019(平成 31)年3月には、第2次鶴岡市総合計画の策定に合わせて「朝日地域振興計画」を新たに策定し、地域が抱える課題の解決に向けて、「中山間地域の暮らしを守り、支える取組」を重点方針に据え、克雪対策などの定住環境の整備・支援や、地域特性を活用した農林業の振興及び観光の振興の取組を進めてきたところです。

しかしながら、地域を取りまく環境は、人口減少のさらなる進行や新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした生活様式の変化や働き方の多様化、気候変動による自然災害の頻発など、様々な課題が複雑で複合的なものとなっている現状にあります。

こうした社会情勢の変化や、地域が抱える課題への的確に対応する地域づくりを進めるため、第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定に合わせて、新・朝日地域振興計画を策定することとしました。この計画においては、朝日地域振興懇談会をはじめとした地域住民からの対話の中から、朝日地域の抱える課題を整理し、課題解決に向け『中山間地域の暮らしを守り、支える取組』を重点的な取組方針に掲げ、「中山間地域における定住環境の支援」「森林資源、自然環境等を活用し、中山間地に特化した農林業の振興」「自然、文化、風土など地域資源を活用した観光の振興」の三つの基本方針を柱に据えて策定します。

計画期間は、2024年度から2028年度までの5年間とし、この計画に基づき、朝日地域の更なる振興に向け、地域住民や各種団体など様々な主体との協働・連携を図りながら、持続的な地域づくりを目指して取組を展開し、特色あるまちづくりを推進していきます。

## 2. 朝日地域の特性・概要

### (1) 自然及び地理的条件

朝日地域は鶴岡市の南端、庄内の最南端に位置する地域で、面積は569.17平方キロメートルと鶴岡市全体1311.53平方キロメートルの4割強を占める地域です。その大部分は山岳地帯で、山地面積は地域の約94%を占めており、うち60%が国有林であるとともに、磐梯朝日国立公園に指定されています。

東側には湯殿山、南側には朝日連峰の以東岳、西側には温海地域と接する摩耶山に挟まれた中、東の梵字川、西の赤川が地域を縦貫し、合流後は庄内平野の水源となっています。

河川沿いのY字に細長く集落が点在していることとともに、降雪量が極めて多いことが特徴で、山間部では積雪が3mを超える地域があります。

## (2)歴史的条件

朝日地域には、最も古いもので17,000年前といわれる旧石器時代の遺跡「越中山遺跡」をはじめ、月山、羽黒山、湯殿山の山岳信仰に関わる歴史が多く残っています。

また、1,200年前から開かれたとされる庄内と内陸を結ぶ出羽の古道「六十里越街道」が今も史跡とともに保存されています。

## (3)社会的条件

朝日地域全体として、世帯数、人口共に大きく減少が続いています。

5年刻みのデータにおいても、昭和35年の世帯数・人口を100とした場合、朝日地域全体では60年間で世帯数61.3、人口33.2と大きく減少しています。特に大鳥地区は、世帯数13.9、人口4.8と極めて大きく減少していますが、これは昭和54年の大泉鉱山寿岡選鉱場及び枅形採鉱場閉山が要因としてあげられます。

地域全体としては、地域内の農業や建設業といった雇用を支える産業の衰退を受け、収入を確保するため市内外への転居等も多く、純粋な自然減以外の大きな要因と推察されます。

また、朝日地域での一番大きな課題は、1世帯当たり人員が大きく減少していることです。人口減少率に対し世帯数の減少率が低く、1世帯当たりの構成員数が昭和35年の5.85人から令和2年の3.17人と大きく減少しています。合わせて高齢化率も、65歳以上人口が全市平均34.82%に対し朝日地域が41.54%、75歳以上人口も18.73%に対し21.80%と市全体より高い数値を示しています。かつ、年少人口も市全体11.08%に対し朝日地域9.30%と、より少子化が進んでいる状況にあります。世帯あたりの人口も含めた少子高齢化に伴う人口減少により、今後、世帯単位で行っていた農業や地域の共同作業等を支えることが困難となる可能性を示唆していると考えています。

さらに、交通機関として庄内交通が路線バスを運行していますが、人口減少や自家用車の普及などが要因となり利用者数が減少し、上田沢線及び大網線ともに減便が進んでおり、減便に伴う廃止代替として平成29年度から平日各2便市営バスの運行で補完している状況です。

## (4)総論として

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。しかし、山間地が多く全国的にも有数の豪雪地帯であるうえに、学校・病院等の施設への距離も遠く、平野部に比較して気象・風土・地形に起因する不安要素も大きいことから厳しい定住環境にあります。

特に、市全体でも人口減少や少子高齢化が進む中、中山間地域である朝日地域は特にその傾向が顕著です。また、通院・通学、買い物等、生活交通確保のために路線バス減便に伴い市営バスの運行で補完している状況です。



### 3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題

#### (1) 現計画の取組にかかる整理と検証

##### ① 中山間地域における定住環境の支援

過疎・中山間地域のコミュニティ組織への支援として、住民主体の地域の実情に応じた集落対策として、地域ビジョンの策定への支援を行っています。平成 28 年度から大網地区で取り組んだ「小さな拠点」づくり推進事業においては、地域の将来像として策定された地域デザインの具現化に向けた活動に支援し、持続可能な地域運営組織の育成と活動拠点の整備を進めてきました。

また、克雪対策の取組に加えて、地域内交通対策として市営バスの運行や高校生等の通学費への支援を通じて、安心・安全な生活環境の整備を推進してきました。

さらには、朝日地域の豊かな自然環境を活用し、自然環境教育の実践施設である大鳥自然の家における環境教育プログラム開発を支援し、多くの市民に対して自然環境への理解を深める機会を創出しました。

このような取組を進める中で、令和3年度には地域の若者による新たな団体が結成され、地域と連携した活動を始めると、地域を支える人材育成につながる取組の効果が表れ始めています。

しかし、人口減少・少子高齢化の傾向が顕著で、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動が困難となる可能性があるため、関係人口の掘り起こしを含め、地域を支える人材の育成・確保が急務であると考えています。

##### ② 森林資源、自然環境などを活用した中山間地に特化した農林業の振興

山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうの生産拡大に加え、月山ワインや朝日産そば等の販路拡大と消費拡大への取組に支援し、農産物・特用林産物・加工品などの生産流通体系の整備や、販路・ファンの拡大に一定の効果がありました。

しかし、コロナ禍による月山ワイン商品の販売不振やイベントの中止に加え、高齢化による生産意欲の低下など、地域内の農業生産活動が縮小傾向にあります。

今後は、若者農業者の交流、活動への支援等を引き続き実施し、地域農業の担い手の育成や確保、デジタル技術などを活用した鳥獣害被害対策、地元農産物や加工品の認知度向上、消費拡大に取り組むことで、将来にわたり農業生産活動を継続するための環境整備を進める必要があると考えています。

### ③自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

豊かな自然や山岳信仰などの地域資源を活かした観光振興として、通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場のリフト改修をはじめ、六十里越街道のガイド養成やインバウンドに対応したホームページの拡充、観光客の二次交通確保に向けた取組や登山環境の整備など、関係団体と連携して観光客の受入環境の整備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症流行の影響で誘客数が大幅に減少し、観光事業に関わる多くの活動が停滞し、担い手不足の課題が顕在化しています。

今後は、豊かな自然環境や食文化などの観光資源の保全とそれらを組み合わせた観光コンテンツの磨き上げを図り、SNSなどによる情報発信を促進するとともに、観光者のニーズを捉えた受入体制の整備が必要になっています。また、観光事業の新たな担い手として地域の若者や女性など、多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成への支援等が必要であると考えています。

## (2) 市民との対話などから得られた課題

### ① 住み慣れた地域に安心して生活できる環境の整備

前述のとおり、市全体でも人口減少や少子高齢化が進む中、中山間地域である朝日地域は特にその傾向が顕著で、山林や農地、雪下ろし等を含めた建物等の維持はもとより、長年維持されてきた集落機能が脆弱化し自治会運営・共同作業等、地域維持のための活動も困難となっています。今後ますます世帯員の減少と高齢化が進むことが予想され、地域に多様にかかわる地域外の人材、いわゆる関係人口の掘り起こしや拡大を含め、地域を支える人材育成・確保が急務となっています。

また、学校・病院等生活利便施設への距離も遠く、平野部に比較して気象・風土・地形に起因する不安要素も大きいことから厳しい定住環境にあります。

あわせて、農林業等の低迷が続く中、後継者や担い手不足により農地・山林の荒廃が進み、有害鳥獣被害の増加も顕著で、耕作意欲の減退を招いている状況です。

今後も住み慣れた地域に住み続ける上では、住民一人ひとりの安全・安心が確保され、住み慣れた地域の中で健康に生活できる環境整備や、産業の振興、地域コミュニティの維持再生、交流の促進、自然環境や観光施設等の地域資源の保全・活用を通じた多角的な地域活性化の取組を進める必要があります。また、中山間地域の課題解決を図るためには、デジタル技術を活用した地域づくり活動も必要であると考えています。

## ② 克雪対策への支援

地域振興懇談会や住民懇談会、集落等での会合で話題となるのが「雪」への課題意識です。

朝日地域は全国でも有数の豪雪地帯です。豪雪と言われた平成29年度の場合、鶴岡市豪雪対策本部資料によると、鶴岡公園の最大積雪深が83cmであるのに対し、庁舎周辺の立岩で255cm、大網・大鳥地域でそれぞれ374cm、376cmと市中心地と比較し、3倍から4.5倍の積雪量が観測されました。

また、平年並みといわれる令和30年度最大積雪深も、鶴岡公園、立岩、大網、大鳥の各観測箇所と比較した場合、46cm、176cm、278cm、263cmと、令和2年度も94cm、220cm、311cm、256cmと、2.3倍から3.3倍の積雪量が観測されています。

さらに、日々の除排雪作業や雪下ろしの判断基準となる降雪量累計も、鶴岡公園の537cmに対し、立岩で1,101cm、大網・大鳥地域でそれぞれ1,721cm、1,660cmと極めて多く、1日当たりの降雪量も大鳥で最大81cm、立岩でも68cmと豪雪といわれた鶴岡公園の最大積雪量83cmとほぼ同量の雪が24時間で降る日があります。

この豪雪により、玄関前除雪や屋根の雪下し等、除排雪作業のための労力が地域住民にとって大きな負担となつてのしかかることから、住み慣れた地域に定住し続ける上での大きな課題となっています。

## 4. 朝日地域の目指す方向性

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。しかし、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援に加え、地域を支える人材育成・確保やデジタル技術のモデル活用などにより、地域の暮らしを守り支える取組を進めます。

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や担い手の育成・確保、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や歴史、伝統文化、食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。

**「 中山間地域の暮らしを守り、支える取組を進めます 」**

## 5. 施策の基本方針と主な施策

### 基本方針1 中山間地域における定住環境の支援

地域住民が住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や支援を行います。また、住民による生活基盤の維持、強化に係る取組を支援するとともに、地域課題の解決に地域が主体的に取り組める環境づくりに向けて、地域を支える人材の育成・確保を進めます。あわせて、地域資源である自然環境を活かした次世代を担う人材の育成や、デジタル技術のモデル活用などを進め、中山間地域の暮らしを守り支える取組を行います。

#### ○主な施策(1) 地域防災力の確保と防災基盤の強化

豪雪、風水害などの災害発生時に孤立集落となる危険性のある地域に対して、災害対応力を発揮できるよう自主防災組織の活動を支援するとともに、消防施設などの整備を推進します。

##### ① 自主防災組織の育成支援と地域防災拠点の機能強化

災害対応力を十分に発揮できる活動組織にするため、自主防災組織を対象に訓練等を通じて育成支援を行います。併せて、消防分署からの距離が遠く消防組織による火災対応に時間を要する可能性がある地域に対し、住民自らが初期消火を行うことができる体制づくりに向け、コミュニティ助成事業の制度周知を図り、消防施設などの整備を進めます。また、朝日庁舎と消防署朝日分署の合築による地域防災拠点施設としての整備を進めます。

- ・自主防災組織による地区防災計画の策定や各種訓練への支援
- ・コミュニティ助成事業(自主防災組織育成助成事業)の制度周知
- ・朝日庁舎と消防署朝日分署の合築による地域防災拠点の機能強化

#### ○主な施策(2) 次世代へつなげる活力を育む地域コミュニティづくりの推進

地域の実情に応じた既存集落の維持を図るための支援とともに、広域的な視点による集落間の連携強化をめざし、地域課題解決に向けて主体的に取り組む地域団体や若者組織、持続可能な地域運営組織の育成を支援し、あわせて、活動拠点となるコミュニティ施設などの整備を推進します。また、交流事業や地域資源を活用した関係人口※の創出・拡大と人材育成を推進します。

##### ※関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

### ① 地域の実情に応じた集落対策の推進

既存集落の維持を図るための施策とともに、住民主体による地域の実情に応じた集落対策を推進し、共通の課題を抱える集落間の“つなぎ役”となる集落支援員を配置して広域的な視点から集落間の連携強化を目指します。また、住民同士の話し合いの促進や、地域ビジョン・集落ビジョン策定への指導・助言とその実現に向けた実践活動を支援します。

- ・集落支援員の継続配置、集落ビジョンづくりへの指導・助言
- ・集落ビジョンに基づく実践事業への支援

### ② 地域や若者が主体となり身近な地域課題解決に取り組む環境づくりの推進

地域の若者団体が取り組む地域づくりへの活動を支援し、若者同士のネットワーク形成を通じた次世代につなげる人材育成を進めます。また、持続可能な地域課題に取り組む地域運営組織の育成を支援するとともに、幅広い世代の地域住民による地域づくりへの参画を促していきます。

- ・若者のネットワークづくり、人づくり環境の整備
- ・地域運営組織の育成と活動支援
- ・自治会運営や環境改善への支援
- ・広域コミュニティ施設を拠点にした学習・研修等開催への支援
- ・朝日地域共創プロジェクトへの支援による住民同士の語り合い促進

### ③ 広域コミュニティ組織の運営支援と拠点施設の整備拡充

広域コミュニティ施設を拠点に、各自治会、団体等の自主的活動を尊重しながら相互の連携強化を図り、地域課題解決に向けた学習・研修等の実施や住民ニーズに沿った講座等の開催により地域づくりや生きがいづくりを推進します。また、住民が集う拠点施設としての維持管理を行い、施設の整備拡充を進めていきます。

- ・広域コミュニティ組織を拠点にした地域活動への支援
- ・広域コミュニティ施設の軽微な修繕等による環境整備
- ・広域コミュニティ施設の大規模改修による環境整備

### ④ 交流事業や地域資源を活用した関係人口の創出・拡大

国際的視野を持った青少年育成事業への支援を通じて、地域を支える人材育成や市民相互の交流に発展させることを目指します。また、地域に伝承される伝統行事、食文化、山の暮らしなど山村生活文化と豊かな自然環境を組み合わせ、地域活動や若者団体・観光団体等が取り組む活動への支援を通じて地域理解を深めてもらい、交流人口の拡大及び関係人口の創出・拡大を図ります。

- ・タイへの国際交流派遣の支援
- ・若者団体による観光地など地域資源を活かしたイベント開催等への支援
- ・自然環境や食の魅力を活かしたイベント開催等への支援
- ・地域伝統行事や地域活動の情報発信

## ○主な施策(3) 地域の実情や需要に応じた地域内交通の確保

学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進します。

### ① 地域内生活交通の確保と調査・研究への支援

住民が参画する利用拡大協議会が主体となり、地域住民や利用者への調査を行うなど、地域の実情や需要に応じた市営バスの運行や地域内交通の在り方について調査・研究を行う取組に支援し、利用者の視点に立った地域公共交通対策を進めます。

- ・市営バス運行の継続
- ・地域の実情を踏まえた地域内交通の調査研究
- ・地域住民による地域内交通の仕組みづくり

### ② 高校生通学費への支援

遠距離通学者への定住支援として、高校生等に対する支援とその手続きのデジタルワンストップ化により保護者の負担軽減を図ります。

- ・遠距離高校通学者への通学費支援

## ○主な施策(4) 豪雪地帯における克雪対策への支援

朝日地域に定住し続ける上で雪対策は大きな課題への取組であり、雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組により、定住環境の向上を図ります。

### ① 克雪住宅・克雪小規模生活道整備への支援

住民の負担軽減を目的として、克雪住宅の整備や生活道整備への支援を行い、引き続き克雪対策事業への取組を進めます。

- ・克雪住宅整備への支援
- ・克雪対策生活道整備への支援(宅地内通路の舗装等、小型除雪機購入、融雪施設整備)

### ② 住民が共同で取組む地域内互助除排雪体制の構築などへの支援

住民同士が共同で取り組む除排雪作業へ支援を行うとともに、地域づくりの取組として安全・安心な除排雪作業の仕組みづくりを行う活動等に支援します。

- ・玄関前除雪への支援
- ・安全安心な除排雪作業の仕組みづくりへの支援

## ○主な施策(5) 地域で支え合う福祉支援体制の充実

近隣住民による地域支え合いの仕組みづくりや、関連福祉団体等関係機関との連携による地域資源を活用した包括的な取組を通して、地域住民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるため、地域福祉支援体制の充実を図ります。

### ① 近隣住民による支え合いの仕組みづくりへの支援

住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らしていくため、介護予防事業・健康増進事業を推進するとともに、地域住民のニーズに応じた住民主体による地域支え合い体制の構築に向け、交流や様々な活動を通し地域とのつながりを持つ「通いの場」の運営を支援します。

また、民生児童委員をはじめ朝日地域の福祉分野を担当する関係機関の連携により、地域福祉課題解決のための相談支援体制の充実を図ります。

- ・温泉入浴を活用した介護予防・健康増進事業団体の育成
- ・地域支え合い体制構築に向けた関係機関との取組み
- ・担い手フォローアップ、担い手と通いの場マッチング促進、介護予防目的の通いの場運営支援
- ・地域ニーズに応じた交流の場や居場所づくりへの支援
- ・民生児童委員による地域福祉課題の共有

### ② 地域資源活用による包括的な取組の推進

地域資源を活用した源泉活用事業等の事業者への支援を行うとともに、地域ケア会議等の開催により関連する福祉団体や関係機関等との連携を強化することで、地域福祉支援体制の充実を図っていきます。

- ・源泉活用事業等の事業者への支援
- ・地域ケア会議等の開催による関係機関との連携

### ③ 国保直営診療施設の機能維持

住み慣れた地域で子どもから高齢者までが安心して国保直営診療施設(上田沢診療所・大網診療所)を利用することができるように、プライマリ・ケアの診療が可能な医師の確保、施設設備の維持や計画的な改修、医療機器等の整備を進めるとともに、高齢化の進行により通院が困難な高齢患者や在宅療養患者の増加が見込まれることから、患者輸送体制の維持を図っていきます。

- ・上田沢診療所及び大網診療所の施設設備維持・改修、医療機器等の整備、患者輸送体制の維持

## ○主な施策(6) 森林資源と自然環境を活用した環境教育の実践

豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子どもたちをはじめとした市民への自然環境教育の実践を進めます。

### ① 自然に親しみ触れながら学ぶ自然環境教育の推進と実践

豊かな森林資源と自然環境を活用した活動プログラムを充実させるため、幅広い年代の研修施設として目的に沿った自然環境教育プログラムの開発を行い、自然環境教育の実践を通じた人材育成を推進します。

・大鳥自然の家環境教育プログラム開発への支援

### ② 自然環境教育の実践施設「大鳥自然の家」の整備拡充

自然環境教育実践施設として大鳥自然の家の整備を充実させるため、老朽化した施設の維持管理保全のための環境整備を計画的に行い、山村文化や自然環境への理解を深め、人材育成につなげていきます。

・大鳥自然の家の修繕等による環境整備

## ○主な施策(7) 中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用

中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供、地域づくり活動での活用支援、地域デジタル人材の育成を推進します。

### ① デジタル技術のモデル活用

デジタル技術の活用により時間と場所の制約を軽減することで生活の向上や地域コミュニティの活性化に役立つことが期待されるため、中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術のモデル活用として、市民サービスの提供や地域づくり活動への活用支援を進めます。あわせて、地域づくりを進めるうえで、デジタルデバイド(情報格差)の解消につながる地域デジタル人材の育成を推進し、デジタル機器やサービスを地域で学び合える環境づくりに支援します。

また、朝日庁舎再整備に合わせたデジタル技術の活用を進め、窓口サービスや事務手続きの簡素化を推進します。

・市デジタル化戦略推進室と朝日庁舎との連携による市民サービス実証実験の推進  
・朝日地域共創プロジェクトへの支援  
・地域でのデジタル人材の育成促進、地域でのスマホ教室開催  
・朝日庁舎再整備に合わせたデジタル活用の推進(空間接続など)



## 基本方針 2 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品の販売支援、特産品の開発、既存商品の価値向上に取り組むとともに、農地保全のための地域組織活動への支援などを通して、農村集落機能の維持を目指します。また、広大な森林資源を活用した特用林産物の生産支援などを行い、山林の荒廃防止と資源循環を目指します。

### ○主な施策(1) 中山間地域における持続可能な農業経営への支援

出荷手段を持たない高齢者などへの支援により生産意欲を喚起し、生産量の拡大をめざします。また、朝日地域の特産である山ぶどうをはじめとする醸造用ぶどうを活用した月山ワインや山菜、朝日産そばなど、地域内農産物の生産振興や新たな特産品の開発と販売への支援、交流などによる販路拡大のための取組を推進します。

あわせて地域農業の担い手となる若者農業者等の育成・強化を図ります。

#### ① 地域内農産物・特用林産物の集出荷支援を通じた生産量の拡大

産直施設を拠点として、出荷手段を持たない高齢者などへの集荷や市街地への移動販売を行い、特用林産物や地域内農産物の集出荷支援を進めることで、生産量の拡大を図ります。

- ・産直あさひ・グーによる地域内での特用林産物・農産物の集荷
- ・森の産直カーによる市街地への特用林産物・農産物の移動販売

#### ② 地域内農産物の生産振興支援

山ぶどう、月山ワインについては、醸造用ぶどうの十分な生産量確保と、良質なぶどう生産のために生産者に対する栽培支援を継続し、所得の向上につなげていきます。また、月山ワインの一層の普及・消費拡大に向け月山ワインまつりへの支援を行うとともに、販売力向上のための支援を行います

朝日産そばの振興については、新そばまつりなどのイベントを継続することにより、朝日産そばの認知度を向上させ価値を高めるとともに、ふるさと納税返礼品登録など新たな消費拡大に向けた取組を行います。

さらに、地域農産物や特産品のふるさと納税への登録を推進し、ふるさと納税の返礼品に関する情報をはじめ、その返礼品を生み出す生産者や風土の魅力を発信していきます。

- ・山ぶどうを原料とした月山ワイン消費拡大に繋がる「月山ワインまつり」開催支援
- ・朝日産そば消費拡大イベント開催、商品開発・PR 活動への支援
- ・地域農産物のふるさと納税への登録促進

### ③ 特産品の開発・販売支援や交流による販路拡大

県や市が設けている6次産業化の支援制度等の活用を念頭に特産品開発の支援を行い、付加価値を向上させ販売支援につなげていきます。

また、国内友好都市との交流を通し、交流人口の拡大や特産品の積極的な販路拡大を目指します。

- ・販売を目的とした特産品創出・付加価値向上・省力化による生産維持への補助
- ・墨田区との交流事業を通じた農産物等の販路拡大

### ④ 地域農業を支える担い手等の育成・確保

高齢化等により離農が増加する中、担い手となる若者農業者の研修機会を創出することにより、時代の変化に応じた農業に取り組めるように支援します。

また、ニーズに応じた多様な労働力の確保を支援します。

- ・若者農業者の交流・研修会開催、地域内農産物や特産品に対する販売意識向上
- ・多様な労働力の確保への支援

## ○主な施策(2) 農地・山林保全による農林業生産活動と農村集落機能の維持

地域の共同活動による農用地、水路、農道などの適切な保全管理や持続可能な地域組織活動への支援を通して、農村集落機能の維持をめざします。あわせて、鳥獣被害防止対策への支援強化の取組を推進します。

特用林産物の生産量確保と販売につながる生産者支援を通じて、間伐材等の木材の活用を促し、山林の荒廃防止対策を推進します。

### ① 農地保全のための地域組織活動への支援

日本型直接支払制度に取り組む組織の持続可能な活動を支援するため、取組組織の広域化ならびに事務の一元化による事務負担の軽減を推進し、取組組織の活動継続のための伴走的支援を行っていきます。

- ・国事業を活用した水路、農道などの維持管理活動を行う組織の事務受託体制づくり
- ・中山間地域等直接支払交付金事業の取組支援
- ・多面的機能支払交付金事業の取組支援

### ② 鳥獣被害防止対策への支援強化

クマ、サル、イノシシなどの有害鳥獣被害防止対策への支援を強化します。

また、デジタル技術を活用した鳥獣被害対策について、専門機関等からの協力を得ながら、地域住民と協力して取組を推進します。

- ・鳥獣侵入通知システム構築のための実証実験への協力
- ・鳥獣被害対策(電気柵購入補助、追払い活動・研修支援、巡回調査実施等)の支援強化

### ③ 生産者支援による山林荒廃防止対策の推進

特用林産物の安定した生産量の確保、生産者の技術向上、販売量拡大のための支援を組み合わせ、加えて特用林産物生産への関心を高める取組を行います。これらの取組を通じて間伐材等木材の活用を促進し、山林の荒廃防止対策を推進します。

- ・生産者育成へ繋がる体験事業の実施(市民を対象としたきのこ植菌体験等)
- ・操作初心者等地域内住民を対象としたチェーンソー講習の実施
- ・特用林産物の集荷、移動販売への支援
- ・森林資源を活かした特産品の創出・省力化による生産維持への補助
- ・山菜・きのこ栽培研修会の開催

## 基本方針 3 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。また、観光団体等との連携を強化し、地域にある自然や歴史文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通して地域資源の高付加価値化を進め、地域の活性化につながる観光振興を目指します。

### ○主な施策(1) 通年で選ばれる観光拠点施設の環境整備と人材育成の支援

通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた誘客を図るための計画的な環境整備を推進するとともに、拠点施設におけるインフォメーション機能の整備やガイドなどの人材育成を支援します。

#### ① 通年型観光拠点施設等の整備推進

通年型観光の拠点施設である湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、道の駅「月山」月山あさひ博物村をはじめとする観光施設について、計画的な修繕と整備拡充により老朽化した施設や設備の長寿命化を図り、適切な維持管理を行うことで、施設利用者の満足度を向上させ誘客を推進します。

- ・湯殿山スキー場、あさひ家族キャンプ村の適正な維持管理と計画的な施設整備
- ・道の駅「月山」あさひ博物村の適正な維持管理と計画的な施設整備
- ・市観光施設の計画的な修繕、施設整備

## ② インフォメーション機能向上と人材育成支援

道の駅「月山」の機能を有効に活用し、あさひむら観光協会と連携して観光者のニーズに沿った情報発信を行うとともに、外国人旅行者の認知度向上につながる多言語対応の看板設置等の取組を進め、観光案内機能向上の取組を進めます。

また、観光資源の魅力を効果的に発信するため、六十里越街道ガイドをはじめとする観光人材の育成を支援します。

- ・六十里越街道の魅力発信(街道ガイドの育成支援等)
- ・あさひむら観光協会と連携したインフォメーション機能の向上

## ○主な施策(2) 観光団体等との連携による地域資源活用の推進

日本遺産の構成文化財である湯殿山や六十里越街道、大鳥池や以東岳をはじめとする朝日連峰の豊かな自然環境、また、地域の歴史から積み重ねられた生活様式、食文化など観光資源の複合的な活用を進めるとともに、近隣地域との連携により地域資源の魅力を高めて交流人口の拡大を図ります。あわせて、観光団体等と連携し、情報発信の強化と受入環境整備の取組を進めます。

### ① 地域資源の複合的な活用による交流人口の拡大

多様な地域資源と点在する観光資源の複合的に活用し、四季折々の変化を感じられる自然体験や六十里越街道などの歴史文化の探求、特色ある食文化を楽しめる体験など、付加価値を高めた体験観光の取組に支援し、観光資源の保全を進めながら交流人口の拡大を図ります。

- ・六十里越街道の魅力発信(地域の若者を対象にした古道歩きイベント等)
- ・アルゴディア研究会の活動支援(街道整備保全、街道活用イベント)
- ・四季を通じた自然体験イベント開催(タキタロウまつり・月山あさひ雪まつり)
- ・地域独自の食文化体験イベント開催と情報発信の強化

### ② 近隣地域との連携による広域観光の推進

庄内と村山を結ぶ六十里越街道を文化的資源として整備保存し活用につなげるため、鶴岡市と西川町その他、街道団体や国・県等と広域的に連携し、観光振興を通じた地域づくりや、地域経済への好循環の創出につながる取組を推進します。

- ・六十里越街道を軸とした鶴岡市・西川町・県・国・街道関係団体との広域連携の推進

### ③ 観光情報発信の強化と受入体制の整備

あさひむら観光協会や観光団体等と連携し、SNSの活用による情報発信の強化に取り組んでいきます。また、六十里越街道や朝日連峰等の自然・歴史・文化等の地域資源を活用しながら保全・継承していくために、地域住民や関係団体と連携して快適で安全な登山環境の維持や改修整備を行うとともに、六十里越街道を保全する取組に支援していきます。

さらに、登山客等の二次交通の確保や、パンフレット・ホームページ等の多言語対応の推進によりインバウンド誘客のための取組に支援し、観光客の受入体制の整備を進めます。

- ・快適で安全な登山環境の維持・改修整備(登山道・避難小屋・登山トイレ)
- ・朝日連峰をはじめとした登山客の二次交通確保
- ・アルゴディア研究会の活動支援(街道整備・保全、街道を活用したイベント開催)
- ・SNS活用による情報発信
- ・インバウンド誘客体制の整備